

支倉常長フェロー報告書

提出日 2009年 7月 21日



申請者	氏名	田中佑治
	所属・職	大学院生
出張期間	2009年 7月 12日 ～ 7月 18日	
渡航先	Cardiff 大学 (英)	
渡航目的	学会参加 (The 9 th Corneal Conference)	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	Light Transmissive Aligned Collagen Hydrogels for Tissue Engineering of Corneal Stroma	
得られた成果など	<p>今回Cardiff大学 (英) で開催されたThe 9th Corneal conferenceに招待され、支倉フェローの支援のもと” Light Transmissive Aligned collagen hydrogels for Tissue Engineering of Corneal Stroma” というタイトルで現在研究を進めている角膜実質再生医療技術開発に関する口頭発表を行ってきた。</p> <p>Cardiff大学はSir Martine E Vance (ノーベル賞) によって樹立されたES細胞等の研究で有名な大学である。今回の学会を主催するCardiff大学School of Optometry and Vision Sciencesはイギリス国内でトップにランクされ、角膜に関する基礎研究から臨床研究までを幅広くまた深く研究している。学会の規模は他の学会と比較すると小さいものであるが、3年毎にCardiff大学で開催され、角膜に特化した主要な研究者が世界中から集い、その成果を発表し、非常に密な討論が行われる。</p> <p>特に角膜実質はコラーゲンと角膜実質細胞によって構成されるが、今回はコラーゲン細線維形成の権威であるProf. David Birkと角膜実質細胞培養の権威であるProf. Jim Funderburghの両者が出席された。講演には厚みがあり、ディスカッションは常に的を得ており、聞きごたえがあった。また屈折矯正の権威であるProf. John Marshallはその始まりから最新の研究までの歴史や粘り強く一つの課題を考え続けることの大切さを講義され、勉強になった。</p> <p>私の発表は英語で初めての発表ということもあり、またあえて原稿を用意しなかったため、説明につたない部分がでてしまったが、色々聞き回ってみたい限り概ね理解して頂けた様で安心した。また発表前後に研究の内容を熱心に訪ねてきてくれる方々がいたのには非常に驚いた。</p> <p>角膜実質再生医療に関しては角膜上皮や角膜内皮の様に最終形が定まったものではなく、何が必須なのかすら分かっていない部分が多い。その分チャレンジングでバラエティーに富む様々な試みが行われている。その中で少なくとも上記の先生方から Competitor と口に出して頂けたのは、ある程度同じ土俵に立つものとして認めて頂いたものと考えている。また多くの研究者とアイデアを交換することができ、ある程度考えていることが把握できたことが非常に有益であった (もっとも Competitor という事で多くは語ってくれなかったが…)</p>	

